

## 第5回 福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議[分科会Ⅰ Ⅱ]

- 1 日時 平成27年8月27日(木) 10:00~12:00
- 2 場所 市民交流プラザふくちやま(ききょう) 3階 視聴覚室
- 3 参加者 委員 9人  
事務局 3人

### 農産物生産・販売振興システムについて

- 「少量多品種」という問題がある。定年退職して、年金をもらいながら、ちょっと農業もするという人ではなく、これから若者に農業を始めてもらう上で、生活できるようある程度は量を確保できるような仕組みがないといけない。
- 機械化していくのも量が重要となる。そういう意味では、品目を絞るのもあり。
- しかし東京では、量が多いと売れない。食べ切りサイズ、その日使いきれぬ量が売れる。
- 販路が増えることでどうなるか、が重要ではないか。それにより雇用が生まれ生産者が増えるのか、それとも、価格変動により今の農家の収入が増えるのか。
- 農家の経営コンサルは、農作物ができるまでのコストをあまり考えない。トラクター購入など、農業には設備的経費がかなりかかる。それを考えてお儲かる仕組みがいる。
- 戦略的にどうブランディングするか。ストーリー、付加価値をどうつくるか。例えば、この野菜は学生が作りました、というような。
- インターネットの整備により、通販戦略も重要となっている。
- ブランド化については、いきなり商店街で高いものを出しても売れない。まずは、ホテルなどに働きかけて、そういったマーケットから価値を高めていく必要がある。
- 農家の人々は実際どの程度のところを求めているのか。どんどん規模を拡大して儲けたいのか、とりあえず持続していきたいのか。全体の統一した気持ちの醸成も必要なのではないか。
- 目指すべきところがどこかは重要である。ただ豊かに暮らしていきたいのか。それとも一千万円農家を目指すのか。

○「夢だけでは食べていけないが、夢がないと食べていけない。」

#### パワーオンネットについて

- これまでから企業間の連携はできていた。これからは、学、官など様々な連携によって、課題を解決することや、コスト削減、質の向上だけでなく「こういう商品をつくれれば売れる」「こういう市場がある」というところから新たなものを産み出していくことができる。
- 企業間の連携で難しいところは、自分達だけで造れるものは自分達だけで造りきりたいという考えがあること。
- 横の連携にはコーディネーターが必要である。行政でもそう。あと目的意識の共有と、連携しなければならない理由などが必要となる。
- 何かいいものを造って終わり、でなく、そこから新たな雇用が生まれなければならない。
- 福知山に留まらず、広域に連携することが大事。秋田県は東北6県をまきこんで連携している。あくまで福知山が主だったとしても「北近畿」を名乗ることもあり。
- 例えば農業分野で、技術的に解決できない課題をパワーオンネットによる研究開発で解決し、行政がそれを支援するなどが理想である。
- 間伐材のチップ化、有害鳥獣のジビエ活用など、技術的な部分で解決に向かう例は確かにある。
- 綾部の工業団地には雇用があるが、それによって人が来ることにはならない、という話を聞いた。雇用の確保が移住へと簡単には結びつかないと考えられる。
- 今後、雇用や産業があっても人がいなくなるとしたら、労働力として外国人に頼らざるをえなくなる時代が来る。
- そうなったときに、その外国人の人たちにとってやさしいまちでなければならない。
- 国際交流の場は今後ますます重要となる。
- 今度、丹波漆に惹かれて移住を決めた若者がやってくるが、せっかく移住してもらっても、漆だけでは食べていけない。移住後の生活をどうするか、そのことを相談できるような窓口はないものか。
- 例えばウーフの制度を活用してもらえれば、とりあえず一定期間は食住に対する生活費を抑えることはできる。
- 漆はそれほど儲からないのか。訪日の外国人に対しては、多少高額であっても売れるのでは。クールジャパンというスタイルに載せてうまく発信することも必要である。

○住む場所の提供は旧市街地については民間で充足している。綾部市と同じように、周辺部に特化するなど絞ることも必要と考える。

#### 大江観光DMO

○よっぽどのコンテンツがないと、わざわざ大江地域まで足を運ばない。市民アイデア買い取り事業であった「大江地域で鬼ごっこ」など、そのエリアの強みを最大限に活用しなければならない。鬼と自然交流など。

○ターゲットを設定し、そこにどんなニーズがあるのか。行動心理をつかまないといけない。

○大江地域にもいいものがいっぱいあるが昔からPRの方法が弱い。最初はだましてでも来てもらう必要がある。

## 第5回 福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議[分科会Ⅲ IV]

- 1 日 時 平成27年8月27日(木)13:30~15:30
- 2 場 所 市民交流プラザふくちやま(ききょう)3階 視聴覚室
- 3 出席者 委 員 11人  
事務局 5人

### 婚活事業について

- 婚活イベントも民間なら営利に走ってしまいがち。行政がやるなら、女性を外から呼ぶような仕掛けをしたほうがいい。
- 婚活イベントへは何度も参加しづらい。特に女性はそう。だから外から集める必要がある。
- 福知山ならではの企画ということなら事業所単位で声掛けしてみるという方法も考えられるのではないか。
- 金融機関も声をかけてもらえればスタッフとしてなど協力することができる。市の職員もスタッフとして参加するなど。
- 観光のつもりでもとにかく外から来てもらう。女性はただ旅行するつもりで遊べるけど、そのかわり男性と相席にするとか。
- 婚活事業に銀行からの融資はできるが、どう回収するかが問題となる。そう考えると基金のほうがいい。大きくアドバルーンを上げて資金を募る。
- 例えば雲原地区でやるなら婿入り募集の方が合っているかもしれない。
- テーマについては別に婚活じゃなくてもいいのでは。例えば、アイデアソンでもいいし、まちづくりとかテーマを絞って、とにかく集まって話してもらう仕掛けをすれば。
- 呼ぶべき対象に応じてテーマ設定する必要はある。
- 誰でもいいから来てほしい、というのを行政がお金を出すべきでは無いと考える。もし市でやるなら、「まちの役に立つ人」に来てもらうような仕掛けでない。
- 出会いの場がないというが、周りに一人おもしろい人がいれば、そこから生まれたりする。
- お金を出すなら事業となる。
- チケットを買ってもらうとか、収益によって回すことも考えられる。また、アイデア事業と合わせて考えるなど、事業の連携もあり。

- NPO 法人を立ち上げる例はある。そこに委託、出資して、他の観光などと組み合わせ、事業展開をはかりそこで回収する。
- 婚活は出会いを増やし、子ども増やすには大事だが、生活インフラコストを下げるといふことをもっと積極的に考えるべき。子育てにはお金がかかる。
- 今後、教育コストもクローズアップされる。
- 子育てのことで、三田市は子育て支援に特化している、という PR をしている。神戸よりも三田という人がいる。子育てにかかるお金が安いという。
- 例えば福知山市なら都会と違い出産費が抑えられる。そういう点も注目すべき。田舎と書いていても、実際に来てみたら良いところと感じる。うまく発信できれば。
- 色んなところで意見、不満をいうのは大体女性。それは女性目線が入っていないということ。あらゆる場面で女性目線を加えればそれらは解決する。
- 子育ての分野で色々検討されているが、不登校の問題など本当に困っている人のことを考えて作らないと、と思う。全体的に当事者の声を聴いてつくっているのか気になるところ。
- 外国人で、各自治体の魅力を動画で海外発信する専門家がいるが、奈良市ではその人を呼んで市を紹介してもらうなどしている。
- いつ、どうやってやるか、具体論を議論したい。
- 夢のあることがしたい。地域をあげて小水力発電に取り組んでおり、発電機の 4 号機では、EV 充電できるぐらいの発電力が生み出せた。
- この会議は、取り組みを進めていくための考え方や方向性についての話し合いの場と思っていた。具体的な話をするべきだったのか。だとしたら、これまでは的外れな話をしていたことになる。
- そもそも、戦略の立ち位置が自分の考えとは違う。増やしていく、ことが目的であればこれまでの考え方と変わらない。本来は減っていくことを前提にそれに対応するよう考えるべき。もしこのままの方向でやるなら、福知山市だけでは無理。広域的な連携が必須となるが、その視点もほとんど書かれていない。
- 婚活を行政でやるのは基本的には反対。東京に出ている若年女性は田舎へ帰り子どもを産むべき、というのが政府の考え方とあっていい。これは反対。
- 外国語表記をしたって別に外国人は来ない。それに金かけるより、例えば「ロンリープラネット（地球の歩き方）」に福知山を掲載してもらえよう働きかけるほうが何倍も効果がある。城崎に外国人が来るのはロンリープラネットに載っているから。来てあたりまえ。また、おもてなし、という精神も大事だが、来た外国人からはがっばり儲けることを考えないと。
- 危機感が地域にない。自治会など意識改革が必要。